各地連女性協で定期大会開かれる

◇北信越地連◇ 女性協の活動見直す

第三三回北信越地連女性協定期大会が11月20日に、富山市県民会館で開催されました。今回は、各単組の常任委員と代表、そして地連からも参加がありました。

ここ数年、北信越では女性社員の高齢化、新入社員の減少が続き女性部が自然消滅しそうな単組もでてくる可能性もあります。それと同時に派遣社員の増加により、女性の正社員の数が圧倒的に少なくなってきており、その分仕事量が増えてきているのが現実です。このような中で、各単組から女性協に役員を選出することが困難になってきました。そこで今回の定期大会では、これまでの女性協議会の活動を見直し、地連の了承を得て各単組に女性担当（最低一人）を置き、組合間のネットワークの整備を進めることを決定しました。この討論の中で、今後の女性を中心とする活動は、地連主導で行うこととし、女性代表者会議（仮称）や学習会などを開催し、女性問題に関する取り組みをしていくことを確認しました。

また、この女性担当で作る組織を取りまとめていく地連執行委員を決めることを申し合わせました。

今後は新しい形で女性協の活動を展開していきます。

◇中四国地連◇ 育休について討論

中四国地連女性協議会定期大会は、11月20日に広島で行われました。去年までは二日間のスケジュールでしたが、一日のみの方が遠方の人が参加しやすいのではないかと考え、今回は一日のみの開催になりました。

参加者は女性協常任委員八人、四単組四人、中四国地連から一人、労連女性協から一人の計一四人でした。

大会は、各単組からの報告、討論が主になりました。報告では、派遣社員が増え、正社員の採用が極めて少ないという問題を抱えている単組が多く見受けられました。また社員の減少に伴い、組合員の高齢化、減少化の目立つ単組もありました。そのほかには、男性と女性で賃金や仕事内容の格差が存在する、という報告もありました。

このところ中四国では、産休、育休取得者が多いことや、育休二年の回答を得られた単組があったことなどから、改めて討論となりました。育休の適切な期間とはどのくらいか？また、有給か無給か、定昇の有無、退職金はどうなるのか、査定に関わるか、休暇明けの仕事のフォローなど、様々な観点から育休を考えるべきとの意見も出ました。

そのほか、組合の統一問題や民放年金基金についての質問も出ました。各単組報告、討論のあとは財政報告、新旧役員の紹介で大会は終了しました。夜の交流会はざっくばらんな雰囲気で行われ、率直な意見も飛び交い、各単組間のつながりがより密になりました。

◇九州地連◇ 産休の有給化要求を

九州地連女性協議会定期大会は、10月31日に福岡・KBC会館にて行なわれました。九州地連から岡田浩一委員長、労連女性協からは岩田牧子副議長と神内美香子書記長が参加、四〇人が参加する大盛況になりました。

今回は特別に「民間放送厚生年金基金の制度変更」について、九州地連の特別執行委員の永江幸司さんに説明をしていただきました。制度の変更についての各局の対応はまちまちで、加入者全員にこの趣旨がきちんと伝わるのか、理解されているのかは疑問の残るところでした。

午後からの各単組報告では「育児休暇取得後の職場復帰時に定昇がない」など、新たな問題が浮上しました。現在この件については、各県の担当者を通じて実態調査をお願いしていますが、全体像がつかめ次第、具体的な取り組みなどを話し合っていきます。

また今回は女性協ならではの試みで、ベビーシッターの方にもお手伝いいただき、会場隣室で子ども達が遊んでいるという微笑ましい光景も見られ、今後の女性協の活動の幅が広がりました。

今後も昨年に引き続き、九州地連女性協は「産休の有給化」要求にこだわっていきます。ご支援をお願いいたします。

2004年度女性協役員一覧

女性協担当中央執行委員　川村高子（熊本放送労組）
副議長　岩田牧子（テレビ東京労組）
書記長　神内美香子（NTV映像センター労組）
常任委員　曽我有紀子（日本テレビ労組）
常任委員　中山登紀子（テレビ朝日労組）

女性の地位向上を目指す

第49回 はたらく女性の中央集会

11月21・22日、長野市で「はたらく女性の中央集会」が開かれました。女性たちが、働く権利や労働条件の改善、くらし、平和、女性の地位向上を目指して集まる場として毎年開催されていますが、今年で四九回目となりました。

企業で労働者として働く女性、業者婦人、農林漁業の女性たちと、参加者は働く場所も環境も実に様々です。しかし働き続けよう、子供もうまく育てていこう、働く楽しさを見つけよう、という思いは共通していることを改めて感じる集会でした。

また、共通の思いとして憲法改悪に対する危機感はこの集会においても色濃く、テーマは「ストップ！憲法改悪　〝戦争する国〟づくり」でした。全体会でイラクの実相が語られるという具体的な訴えだけに留まらず、分科会等でも、労働環境もまず平和な世の中であってこそだと訴える様子が見られました。

民放以外の職場で働く女性も同じ悩みを抱えながら、働く喜びを感じています。

次の機会にぜひ参加してみてください。新たな発見があるかもしれません。